

市川市立第二中学校

同窓会会報



創刊号

校歌

平井保喜作曲
浜田佐賀衛作誌

- 一、須和田が丘に聳え立つ
わが学舎のはらからは
いにしへ人の由縁ある
眞間の眞名井の眞清水の
淨く明るく直きを心に
- 二、聞けや名に負う鴻の台
松の緑のひとしほに
常盤の調べさやけきを
明け暮れここにいそしみて
いざ敏く分けむ文の林を
- 三、見よや都の曙に
紅映ゆる市川の
栄ゆく末を担ひ起ち
花咲き匂ふ学園に
燃ゆる希望の
若人 われら

目次

◇表紙 川崎陸子

二中校歌	橋本佳代子 (一)
創刊の辞	高橋幸夫 (三)
創刊に寄せて	大野正義 (三)
祝	高山徳治 (四)
二中の揺籃時代	山本洋之 (五)
同窓会の意義について	森川忠正 (六)
新入会員になつて	山崎健司 (六)
総会の感想	佐橋陽二 (七)
同窓会の今後のあり方	竹本郁子 (八)
思い出のページより	坪田美佐子 (八)
職場と学校	森 薫 (九)
新入会員になつて	岸田 弘 (十)
雑	松本富美子 (十)
映画	鹿倉 操 (十一)
二人の卒業生の足どり	桑村 益夫 (十二)
一枚の葉書から (十三)
諸報 (十六)
会 (十八)

創刊の辞

市川二中同窓会副会長

橋本佳代子



今年も春がめぐつて来た。桜咲く桜土手を通ると、何年か前に毎日この道を往復していた事を思い出す。ふと思ひ出した二中の丘や友人達、そんな仲間とのつながりを保つのが同窓会であろう。

さて、この同窓会の歩みを顧みるに、昨年は秋に映画会を開いたものの、少くとも一昨年辺り迄はその動きは年一回の総会に限られていた。堅苦しい議事とちよつとした余興と二、三の先生と新入会員を除けばいくらかも来ない同窓生との、ガサ／＼した会合、ただそれだけの総会であつた。

旧い友と春の一日を語り合う機会としてこの總會は欠くべからざるものであろうがこの總會はむしろ役員改選やその他の議事のために開かれるのであつて同窓会の本質ではない。しかるに結成後五年を経過したこの同窓会は今や總會即ち同窓会の感が深い。そこでもつと本質的な活動が要求されて来るし、現在はそうなるべき時期になつてゐると思う。

この小冊子はこのような条件のもとに發行されんとしている。そこにこの会報を創刊する事の意義があり、その喜びもある。

中学時代の三年間なぞは長い長い人世のほんの一部でしかないかもしれないし、社会へ進出するための踏み石でしかないかもしれない。だからと云つて、中学時代の三年間が無価値であつたことにはならない。それどころか我々はそこで学んだり体験したりした無数のものを基盤として今日の生活営んでゐる。

戦後十年、少くとも表面的には平和な年月だつた。今後、世界の二大主義の対立がどんな状態をかもし出すかは計り知れぬ。しかしこれだけは云える。即ち、どんな情勢になろうとも我々は生きて行かねばならないのだ。

次代の日本を背負い立ち苦難の道を開き歩まねばならぬ我々若人にとつて、この二中同窓会のこの冊子を媒介としての交流が、日々の生活の潤いとなり支柱となることを望んでやまない。(三期生)

創刊に寄せて

高橋幸夫

同じ学校に時を同じくして学んだ友達、時こそ異え同じ学校を築立つた人々、これ等の者程人世にとつて頼りになり、はげましになり、救いになる間柄はないと思ひます。

特に学校生活に於ける一番思い出の多い、そして全ての人の通らねばならない最後の学校である中学校の同窓こそ生涯の友であり、指針であり、頼りであると信じます。

今年も眞間川の櫻に先がけて 去る三月十日に二百九十五名の新会員を迎えて、本校同窓会もすでに千名を越す大世帯となり、愈々堅実な歩みを續けている事は御同慶に堪えない次才です。

一校の校風は一日には出来ません。永い歴史と伝統によつて育まれて来たものであります。この輝く歴史とよりよい伝統を創り上げて来たものは其の校の先輩である諸君であり、これを受継ぎより光彩を副えるものは、其の校の後輩である現在在校生であり、これを永遠に香り高く咲き匂わすものが兩者を結ぶ同窓会員であると考へます。

この様に考えて参ります時、同窓会と学校との緊密性は益々高まり、相互に助け合いながら生々發展して行く事が出来るでしょうし、この縦の連絡と共に会員相互の横の結び合いも亦力強くなるものがあるでしょう。

(三)
この意味合いにおきまして、同窓会報の発刊は眞に意義のあることとあります。

是非將來とも、役員のものでもなく、学校のものでもなく、これらを結ぶ会員の会報としての生長を祈つてやみません(現二中学校)

祝

大野正義

卒業の回を重ねること六回で 同窓會誌が創刊される由、之にお祝を申あげる光榮は千載一遇である。

このような會誌は、組織と人に恵まれないと中絶する恐れが多いのである。或る一部の折角骨をおつた人たちの立派なアイデアを無にする場合がないとは言えない。

師の恩、友情、母校等への思慕が募るのは、年を経るに従つて激しくなるものだが、此心ほど美しいものはない、人世を淨化する心である。

東風吹く梅花の候の凛烈さにおもいを致すとき年々歳々師を憶い友を想う、中学時代の感激は消えない、之をあたためるのも人世の半面である。

人間の結び合いは、万物の靈長の特有である。ヒューマニズムの

精神に花を咲かせる機曾は同窓会の感激にある。洵に結構である。

私は廿九年度のPTA會長として意義ある奉仕をしたと思ひ、なお燃え旺る氣持は、才六回卒業式席上(あの日校庭は北風と折々小雨もあつて寒かつた)祝辞の中に挿んだ通り、十周年記念行事として講堂を建てて、これからの卒業式はもとより皆さんの種々の行事が行なえるようにしたいと悲願を約束したのである。

それには今から準備実行にかかり、會長を辞めても、この事だけは、今後幾千となく来る同窓生のため成し遂げる覚悟でいる。

この事は、先輩たる二中の輝かしい歴史を築きあげた皆さんえのお願いなのであつて、どうか力強い御援助を切望して熄まない。

私共と卒業生の皆さんの母校をおもひ心は兩角から出合った線のように一点に交はるものと思ひ。

立派な同窓會であるより祈り、創刊をお祝い申あげる。

(元二中PTA會長)

二中の搖籃時代

高山徳治

夢多き若人達の学び舎である市川二中が現在の如く發展向上したことは創立当時から五年間学校長として勤務した私にとつて眞実に一木一草も皆想ひ出の種でないものはないが、同窓會誌の発刊されるに當つて思ひだすままに當時の事を記して見よう。

先づ昭和二十二年五月学校長としての辞令を受取つて眞間小に向つて来た。所々の電柱や板塀に眞間小と二中の開校の日時が張り出されてあつた。眞間小に校長先生を訪問して行くと二中の教室、職員室、机、腰掛等の必要な調度品が一応揃えられて教室も整然と置かれていたので二度びつくり。一回の職員顔合せもせず、一面譏すらない教員同志且つ新設校がかくまで整理されていた事は、一重に眞間小斎藤実校長先生の心からなる御配慮によるものであることが後に知らされて、二中関係者は今も感謝している次才であつて、この事だけは特筆大書する責任が私にあるような氣がする。この一事が市川市内五中学校が同時に発足しながら最も早く軌道に乗り、現在の如く發展した礎となつたのである。

次にあの無格構な帽章についてであるが、制定責任者の私はこのように考へている。それはあのみぢの一葉が眞間の地名を代表するものである。その理由は眞間山弘法寺に全国でも珍しい天然記念物二葉楓という樹がある。この一葉を二中の帽章に取り入れたものである。此の弘法寺こそは鎌倉時代の傑僧日蓮が弘めた宗派に属するもので、日蓮は我が千葉県が生んだ宗教的偉人である。私は生徒に宗教教育を施そう等という事は毛頭考へてはいないが、時の執権北條氏に対してその墮落を戒め自分の首を切られることは、黄金と泥土を交換するよりなものだと滝口で断首の刑に処せられるのも平氣で自己の信念に生き「われ日本の柱とならん、われ日本の大船とならん」と叫んだ人間日蓮こそ遠大な理想と確固たる自己の信念に生き抜いた人で、若人の以て範とすべき人だと強く信じているそれがたま／＼二中の敷地と定まつた須和田丘とかつては地續きで

あつた所にあるので採用した。

職員には山荒し・ぶか、生徒にはガアーチャン、トンチ、會長等という愛稱やニックネームもあつて全員和氣藹々のうちに過した事は何によりの懐いし想い出である。(自分の事は誰かどかくだろう)創立の昭和二十二年は全国的に食糧事情も悪くて臨時休業も加えて五十日の暑中休暇をやつたが二中は希望者を集めてその休を殆んど返上して空襲や疎開による空白を埋めて今日の基礎を職員父兄生徒で築いた。

最後に二中の生徒としてはあくまで誰もが清く明るく正しく生きると同時に遠大な理想を以て巢立つてもらいたい爲に校歌も三回程修正加筆して現在のようにまとまつたのであります。まだ色々と書きたいこともあるが紙面の都合で省略いたします。

同窓会員の皆さんお元氣で

昭和三十年四月十三日 浦安中学校校長室にて

(元二中校長)

同窓会の意義について

山本洋之

此度我々の同窓会の会誌が発刊の運びとなつたことは眞に喜ばしいことである。

この機会を利用して同窓会の存在意義について少し述べてみたい。人類のみならず地球上の多くの種類の動物は親子の愛情、異性に対する愛情を持つている。しかるに智慧のある動物ホモサピエンスといわれる人類には、この他にその生活する社会、例えば学校、町村、国家、世界等を構成する仲間に対する愛情がある。この氣持は我々の生活を人間味のある、精神的に豊かなものたらしむるものであり、ヒューマニズムの根源となるものであると考えます。

友情もこの種の愛情の一つなのである。学校時代の友と常に交際し互に助け合い、又遠く離れた友人とも時たま語らい、先輩後輩が導き勵し合うことは我々の生活を非常に豊かなものにする事である。この友情を媒介する場として同窓会が存在するのである。ここに同窓会の才一の存在意義がある。同窓会の第二の意義として母校の発展に対する協力があつた。学校の発展には先生、生徒、父母の努力の他に卒業生の永く変らぬ母校愛の氣持による協力が必要である。この点に關し、現在我々は未だ若年で無力の故何もできないが、將來は母校の発展のために役立ちたいと考える者である。

更に又中学校同窓会は一定地域を基盤として成り立ち、その地域において多数の会員を有するところの、友情により互にしっかりと結合された団体であるから、その活動を通じて地域社会の向上に貢献できるのである。ここに同窓会の持つ第三の意義がある。

しかし前述した同窓会の諸機能を充分に果すことは單に一部の役員のみでは不可能なことであり、全ての会員、特に後輩諸君や又母校の諸先生方の御協力、御援助を必要とするのである。同窓会の存在を意義あらしむることは非常に困難なことであるがしかし又ぜひ

そうしたいものである。

(二期生)

總會の感想

山崎健司

感想といつても一番近い会で一年も前だから、鮮明な記憶はないけれど、思い出して書いてみようと思う。總會準備の方はあまり關係なく過して來たので、役員の方々の種々な苦勞はよくわからないが、大分努力されている模様である。その割合に報いられていない様に思えるのはどうしてなのであろうか。

總會の時期については、通学、通勤していても適當と思う。(特別な場合は知らない)が会員の出席状態は面白くない。理想としては全員だが、そんな事は出来つこないが先に卒業した人は興味を失うのか、忙しいのか、出席者は選擇嚴選されてくる。ほんの少数しか出席しない期がある。この出席者が少いという事が役員の方々の努力にかゝらず報いられぬというのである。しかし昨年のような会では増々出席者が減少するだろうと思う。催し物の多少にもよるからである。

内容についても毎年役員の方々の苦勞するところだと思いが、一工夫欲しい。特に催す物に。例年挨拶、会計報告、役員改選等と固定化しかけて何が何か「ばつ」とした面白いことが抜けているような感じがする。

次に会員は折角集つてもすぐに中へ入らず外で話しているが、目的は旧友と話し事であつても中に椅子の用意があるのだから、そ

「新入会員になつて」

森川忠正

卒業証書を片手に二中の門を出た私達の胸は、新しい社會へ巢立つ明日への希望でいっぱいであつた。しかし三年間共に学び、共に遊んできた母校の先生方や級友達と、別れねばならないと思うと、何か寂しい氣持が心にへばりついて離れない。その氣持をある程度拭い去ってくれるのが、同窓会ではないだろうか。

二度とこない二中時代の思い出を、何時までも生かしておくために又三年間親しんだ友達との交わりを断たないために、同窓生のなごやかな集いを、毎年必ず続けて行きたい。今から十年後、廿年後、澄みきつた空氣の須和田ヶ丘で、同窓生が語りあえたらどんなに楽しい事だろう。その爲には、同窓生一人一人の自覚と努力が必要であると思う。

私達は第六回の卒業生として、同窓会に仲間入したわけであるが、先輩諸氏の実績に恥ないよう努力し、先輩に従い共に楽しく同窓会を発展させて行きたいと思う。

(六期生)

ここで話すよと思ふ。いちいち役員の手をわずらわすのは会的に沿わない。それから先生方が何かの式へ出席されているように片側の椅子に座つてばかりなく、会員の間へ自然に溶け込まれたらと思う。

誰だつて一日つぶして集まるのだから有意義に過したいと思ふのは変りないと思ふから、「行つたつて詰らん」でなく行つてみたい」というような映画程でなくても魅力(?)の様なものを早く作り上げたい。役員も会員も忙しい人々であるけれど、その忙しい中の一年一遍のこの会をもつと楽しくやるようにしたいものである。

(三期生)

同窓會の今後のあり方

佐 橋 陽 二

我々の同窓会の会則を見ると「会員相互の親善」「および母校発展の助成」が、その目的となつてゐる。それに従えば、その目的に徹することが、今後の二中同窓会としての最善のありかただといふことができる。

現在でも、会の幹部の方々は、この目的に向つて努力されているようだ。しかし、実際に「相互の親善」が可成りの程度にまで行われているかどうかとなると、これはいささか疑問のように入る。総会の日出席者の少いのをみても、それは判るだらう。

想ひ出のページより

竹 本 郁 子

二中生活は楽しかつた。想ひ出は山程ある。しかしそれ等は、一把一絡げ幾ら、等と云う安物ではない。一ツ一ツが、絶対に捨て難い尊い宝物である。今ここに、其生活のほんの一端をとり出して見よう。

〇月〇日

「行けやいさ若き血潮に湧き立つは若人の歌」の応援歌も勇ましくと云いたいが実はたつた一学年。しかしあの時は良かった。右も左もわからず、唯夢中で走り、投げ、跳びしたあの第一回競技会。能勢先生を始め、先生方も総出で練習したものだ。所が今日は大変な事が起つた。応援練習の集りが悪いと云つて総ピンタ。講堂の台に選手はづらつと並べられ、其前で。精神がたるんでいる、とは認めるが、若い先生方の、此秩序も道徳も失くした、混乱たる世の中に對する鬱憤が無意識ながら、まわり廻つてこの様な所に爆發したのだとしたら、こちらこそいゝ迷惑だ。

〇月〇日

全く今の校舎(兵舎)は愉快だ。何しろ隣の声がつつ抜けたのだから。「おい！お前は弁当は持つて来るが教科書は忘れたのか。」と樋口先生のあの大声。隣のクラスからもどつとした笑声。「ええ、昨日の自治会で決つた事を報告します。來たる×日、当校に於て……」

(七)

だが、我々の同窓会は、出来てから未だ年が浅い。それ故、前途には明るいものがある筈なのである。現在いろいろとある弊害を除くことも、決してできない相談ではないと思ふ。

例えば、今迄は、会運営の中心となる者は殆んどが一期生だつた。これを徐々に下の方へ移していつたらどうだろう。一期生ばかり頼ることによつて、會の活動状態が、マンネリズム化するよう気がしてならないのだ。

また、毎年の役員選出、これも、もう少し変りばえのするようにならないものか。幹部がマンネリズム化した上、それを取巻く役員も同じような顔ぶれでは、いよ／＼マンネリズム化を助長することになつてしまふ。(尤も役員が熱心な人ばかりならよいが……)。

今度入会された六期生の方々には、大いに期待をかけているが、五期生以上でも、どし／＼新しい熱心な人を役員に選んだらよいのではないか。新鮮な素晴らしいアイデアが出れば、総会も立派になり、「親善」の目的を達成するのもそれだけ容易になると思ふ。

書き忘れたが、会のもう一つの目的である「母校の発展」をいくらかでも達成する為に、毎年行つてゐる、在校生との「進学懇談會」を益々盛んにしていくのも、良い方法だらう。

何だかまとまりのない文になつてしまつたが、要は、會則にある「市川二中同窓会の目的」を徹底させることである。

(四期生)



「石塚君、聞えないぞ。隣の声に負けるな。そこで、彼曰く「では皆静かにして隣のを聞いて下さい。」と、一段と桑村さんの声が高まる。又もや兩クラス阿々大笑。利あらば不利あり。とはこの事か。

〇月〇日

今日の第三時限目、鹿倉先生の時間は氣持良かった。飽くまでも澄み渡つた小春日和り。忠靈塔のへりに思い思いに腰掛け話を聞く眼前に開けて居る自然の極に、富士がくつきり浮かぶ。清涼たる空気を思ひ存分吸う。此素晴らしい味。歌があり、力あり、夢あり、希望ある。そして若人の意氣がある。こうした中に、日々生活出来る事を心より感謝する。形無き自然に對して。がもうわずかでこゝから去らねばならない。ふところ考えたら、少々オセンチになつて來た。等々。

とも角、二中はあの場所と共に、私にとつては永遠の古郷、亡びる事の無い心の古郷である。

(一期生)

職場と学校

坪 田 美 佐 子

三年が過ぎた今日になつて、中学の頃を振り返つてみると、遠い空に浮ぶ雲のような氣がします。三年と云う月日は、矢のように速く過ぎてしまいました。でも、私はこの三年間で、随分大人になつ

(八)

たと驚かずにいられません。

中学を卒業して夜間高校に入り晝間働いて、夜学校に通つた三年間。晝間は大抵、平凡に過ぎてしまいます。私の本当の生活は、夜にあつたと云えるでしょう。授業の外に、演劇部に入つて放課後の数分間を部の人達と過すのが、私の一番幸福な時でした。

夜学と云うととても暗い、眞面目だけの學生が勉強する所と思つていた私は、入つてみて驚いてしまいました。皆とても明朗で元氣です。それは全く、若人のすがたそのものでした。私は、嬉しさのあまり、夢中でその中で、一年半を過しました。ところが、毎日の不規則な生活の為に、体をこわしてしまいました。それが肺浸潤だと知つた時、体の力が、一つべんに、ぬけた思ひでした。私の親友も、悪性の肺門リンパ腺炎で、退学しなければなりませんでした。幸い私は、二ヶ月の休養で、もとの健康に戻りましたが、もう前のような、勇氣がありませんでした。絶えず健康に気をくばつて思ふような活動も出来ず、勉強も、演劇も、控へ目にして、一年を過しました。もう大丈夫だろうと思ひ、演劇に手を出した夏休みに、又病氣です。今度は脚氣……。晝間の過激な運動と、食事の不規則で、健康に戻る事がとても出来ません。二年、三年は全くこんな心配で、思ふ事も出来ずにすごしてしまいました。もう一年、この一年こそ有意義に使いたいと思つています。

学校とくらべると、みおとりのする会社もおもてに表われない、重要な役目をはたしている事がわかります。理想だけでなく、実際に物事を行つていく事によつて人間が造られていくのですから、働く事は勉強の一つであると思ひます。

雑感

岸 田 弘

同窓会の機関誌発行に際し 心からお喜び申し上げます、共に、就職以来、早や一年十ヶ月、立つ私が、楽しい事、つらい事、感じた事等を、書いてみましょう。

私の会社は、一般の会社の如き、日曜日に休める訳でなく、却つて、死に物狂いの如き忙がしさで、日曜日が、とてももうらめしい。皿洗い、夜遅く迄の勤務、お客様への注意。以上の事の外、つらい事が澤山ありますが、楽しい事ときたら、もつと／＼あります。疲れた体で、僅かの時間の読書、映画へ、或る時には、酒を呑み仕事においては、お客様へ、おいしい物を差し上げる楽しさ、原料率、売上げの向上のマッチさせ方、あまり大きな声で言えませんが高価な食べ物、食べられる強味。給料や、賞與の額を見る時。僅かな、給料で、洋服やなんかを、作る楽しみ。いろ／＼ありますが要するに、楽しみも、つらい事も、普通の人と變つてゐる事です。

「アブレ」、私達は、アブレなのです。諸君の中には、学生も、社会人もいでしょう。社会に出て、一番感じた事と、言えば、私達アブレに一番欠けていることは、学生は、學術論文を読まないし社会人は、何の爲に、働き、何の爲に生きてゐるか、言うことです。要するに、筋金が、ないと思ひます。それに、「寛容精神」に欠けていることです。以上申し上げた事は、一々くだいて、説明す

（九）
ですから、私としてはこの『晝働いて、夜学』の勉強法は、合理的な生活だと思つています。たと体をこわす危険が多いのが困りものです。

しかしこの一年間でこの生活からわかれるのかと思ふと嬉しさよりははり淋しさがさきにくる程、私にとつてこの上もない、幸福な日々なのです。

（三期生）

新入会員になつて

森 薫

私達は中学校生活を終えて、いよいよ同窓會の一員となりました。今まで一期の方々から作られてきたこの同窓會、この同窓會に私達も今年から出席できるのかと思ふと、とてもうれしい気がします。私達は同窓會がどんな活動をしているのかまだよくわかりません。しかし同窓會に早く出席してみたいと思ふ氣持はいつばいです。

どうぞ色々な事について御指導下さい。
私達もなるべく總會には出席したいと思ひます。又私達で出来るような仕事はやつてゆきたいと思ひます。

そして今まで作られたこの同窓會をみんなで協力してよりよい二中の同窓會を作りたいと思ひます。

（六期生）

るより、頭の良い皆様の方が、御存知の事と思ひます。

一番残念に思ふのは、読書する時間の少ない事です。学生の頃は随分読んだのに較べ、今は、十分の一位です。本を読まない、馬鹿になります。馬鹿な私は、何んな馬鹿になるか判りません。

いろ／＼と、つまらない事はかり、並べてみました。が、今後は、いろ／＼の商品なり、楽しい思い出を、綴るつもりです。

最後に、「愛」、「誠心」、「感謝」の三つの言葉を忘れずに、何の仕事にも、打込んで下さい。そして、この機関誌が、永続的でありますことを、心から、祈つています。

（不二家カウンター 一期生）

映画会

松 本 富 美 子

同窓會活動として行われたもの一つとして映画会を私はここに取り上げて見たい。映画会が昨年の夏行われた。私はその時映画をゆつくり落ち着いて鑑賞したわけではないから内容についての批判は出来かねるので又の機会にしてここでは映画会そのものについて考へて見たい。私はこの様な映画会は大に行うべきだと思ふ。

夏の夕べのひと時を同窓の友達と共に過す雰圍氣は非常に楽しい。別に映画会に依る利益をとやかく云うのではなくとかく普段離れがちになつてゐる者たちがこの映画会に依つて少しでも親睦をはかれ

るとしたら少し位この映画会に依る費用の点で損をしたとしても映画会を通じての同窓生の集いと云う意味に於ては偉大な收穫と云えよう。この様な点について昨年の映画会を振り返えて見ると同窓生の集会としては未だ物足りぬ感があつた。と云うのは如何にも同窓生の人数が少く感じられたことだ。これもあらゆる点に於て連絡不十分であつたことも確かだ。これからの様な会を得る機会は何年かあると思ふ。役員の人々はあらゆる点で努力を要することは云うまでもなくその圍りを圍む大勢の友達もやはりあらゆる点に於て多大の協力を要する。それでこそ眞の意味の同窓生の集いと云えるしそこから得られる收穫は非常に大きい。最後に私は昨年の映画会を反省して非常に残念に思つたことを一言述べたい。というのは会場内に入る際に同窓生の中に全く不心得の者が見受けられたということだ。たとえ同窓生の手で行われる映画会だとはいえないかなる場合でも正しい態度で望んでもらいたかつた。お互いに自分の態度を反省してみても今後不心得なことをすることのない様注意してもらいたい。

(三期生)

二人の卒業生の足どり

鹿倉操

一枚の葉書から

桑村益夫

今から四年程前の或る初夏の日、須和田ヶ丘の忠霊塔の石段に人待ち顔で腰を降しているチビ高校生がいたんです。
ボクは眼下に拡がる母校の姿を懐しげに眺めていました。今の二中よりはもつとお粗末で、所々に汚い旧兵舎が横たわっていました。ボクは二中を同窓で卒業した山本君から一枚の葉書を受取り、彼に会う為にここへ来たんです。

その葉書こそ、我々の今日の千八百名近い会員を擁する同窓会に育つた力強い芽だつたんです。詳しい文面は忘れましたが、「卒業してもう二年目だ我々の手で二中の同窓会を作ろう」と云う意味のものでした。

ボクが二中時代に餓鬼大将(喧嘩の方ではありません)の様な事をしていたので、彼がまず最初に相談を持ちかけて来たのでした。山本君と会つたこの日から、二中同窓会はかすかな胎動を始めたんです。

彼の家が東京の爲、活動は主にボクがやり、同期の岸田弘君に援助してもらふ事になりました。結成準備委員(各クラス生徒委員)会では八月の第一回總會が決定され、山本君が会則草案を作り、それを主だった人、よく記憶していませんが、岸田君や、女子では一期の小池智子、川崎睦子、石橋洋子の皆さんと、ボク等で審議し

Kは優秀なグループの一人である。高校から大学へと順調にAクラスです。制服のバッチも誇らしげに一応社交性もありスキのない男である。学級委員をしていた頃も手ぎわよく級をまとめていたかに見えた。彼は成人すれば必ず社会的に指導的地位を占めるであらう。私の氣がかりになるのは彼は身体がクタクタでその様な場面になると實に巧妙に体をかわして片手で算盤をはじきそりな態度があつた。頭腦の鋭さに併せて日本の將來にとつても、もう一本筋の通つた青年が育つてほしいと思ふ。Kへの氣がかりが私にとつて大きなミス・テイクであつてくれればよい。

× × ×

なじみの書店へブラリと入つてみると、心覚えのある卒業生の名前が何冊かの書名が注文票にしろされてあつた。店主にそれとなくきいてみると、彼はペン屋に住込職人として働きながら折本を求めにくるそりだ。その讀書ぶりをきいて彼がペンのかまどの前で、本氣になつて「生きることに取り組んでいる姿が浮び、おつとめ人根性丸出しで安定した教師の月給をもらい、怠惰な生活をおくつている自分はずかしくなつた。お詫びのしるしに私の愛読書を注文票に一冊加えてもらつた。二千人近い卒業生の中には彼と同じよりの「足どり」の人も多いことだらう。どうか頑張つて下さい。

(三〇、五、五、こどもの日に)

(二中職員)

☆☆☆☆

卒業生への連絡、又当日のアトラクションで、散々頭を悩ましたが(尤も、この事は今でも總會を開く度に、一番頭痛の種になつてゐるんです)どうやら、總會当日迄漕ぎつける事が出来、百五十人前後の卒業生が参集しました。当日は高山校長先生も早くから、お見えになり、会の発足を喜んで下さり、長いお話しをして下さいました。会則審議、役員選出(詳細は経過報告の頁を御覽下さい)に続いて佐藤先生のピアノ独奏、菊池先生の独唱、二中在校生の独唱最後にボクのインキトランプの独奏で音楽会が終り、散会し引続き、評議委員会が開かれ、正副会長の互選(現行の会則では異なります)が行われ、同窓会発足の提唱者である、山本君が小池さんと共に副会長に逃げちやつて、ボクが無理矢理会長に祭り上げられてしまいました。それ以来も足かけ五年も同窓会との腐れ縁が続いてゐるんです。正直な所、ボクにとつては大変迷惑なんです。

以上が第一回總會迄の大体の成行ですが、過去四年間の個々の活動は省き、思い出の深い、一、二の事を御紹介しましょう。

まず僕達役員に深い感謝と共に思い出されるのは、鹿倉先生の多大な御援助です。殆ど会の発足以来今日に至る迄、学校の勉強や、受験等で忙しかつた僕達を勇気づけ、活動のヒントを與えて下さり、或る時等は、会計から、ガリ版印刷迄、一手に引受けて、僕達の事務的負担を軽減して下さいました。当時の僕達の怠慢と、罔々しさ加減(今でも大分その傾向があります)を思うと恐縮のかぎりです。

ここ改めて先生の絶大なる御協力に心からお礼を申し上げます。これは又辛くもあり、楽しくもあつた思い出ですが、二十八年の

五月總會のアトラクションとして、一期生の有志でチエホフの「結婚申込」を演つた時の事です。当日の三週間程前から、二中や個人の家で練習を始めたんですが、夜遅く迄やる事も度々でした。大学の新一年生が三人に、浪人者（お恥しいですがボクの事です）が一人で、お互いに勉強に迫れる身の上なので、時間が潰されるのは全く閉口しました。脚本の終りの方で、地主（ボク）の娘（Kさん）に結婚を申込みに来た隣りの青年（U君）が一寸した事で、喧嘩するが、結局仲直りして、地主のボクが「娘は承知だ、さあ握手しなさい」（原作とは少し変えました）と云つて手を握らせるシーンがあるんですが、KさんとU君が互に恥しがつて、手を握らないんで随分困りました。

若くて、純真である（敢えて現在形に）僕等には一番演りにくい所であつたのは、無理からぬ事でしょう。

こんな苦労も、總會当日の大勢の同窓生の皆さんの楽しそうな顔を見る時には、一ぺんに吹き飛んでしまふのです。

同窓会の存在價值に関しては色々他の人が述べていると思いますが、ボクはこう考えているんです。

卒業して四・五年もすると、各々の生活も卒業当時とは非常に異り、学校へ行つてゐる人、就職して社会の荒波の中を懸命に泳いでいる人、中には歩を踏み誤り、社会の暗い裏道を、おず／＼と歩まねばならなくなつた人もあるでしょう。これ等種々の人が先輩も後輩も同立場で語り合い、須和田ヶ丘で、カクトウしたり、島を荒し廻つた懐しい二中時代に帰り、恩師と共に打解けて話し合い、互いの生活の悩みを解決し、助け合つて、よりよい方向に進んでゆく

、その話し合いの機会を作る事が同窓会の仕事だと。勿論母校との種々の活動、例えば在校生の爲の、受験や就職のガイダンス等、又同窓会としての文化活動（映画等）も必要です。

僕達役員は自分達の時間をさいて、この無くても、まあ済ます事のできる所の、同窓会の仕事を、ホソボソと続けて来ましたが、端で見る程楽なものではないんです。一番残念な事は僕達役員が苦勞して作つた種々の計画に、会員の皆さんがあまり関心を持つて呉れない事です。こちらの連絡不十分（これは各級連絡委員にも責任があるのです）も有りますが、もつと積極的に僕達皆んなの二中同窓会を盛り立てて行つて戴きたいんです。もつと利用してもらい度いんです。以上取りとめもなく長々と、同窓会の生い立ちから書いて来ましたが、今後の会の発展と、会員の皆さんの御奮闘を祈りつつ筆を置きます。

（二期生）

會 計 報 告

自 昭和29年 5月 9日
至 昭和30年 3月 31日

支出の部		収入の部	
通信費	620.	前期繰越金	19.072.
香奠料	500.	映画会利益金	1.590.
雑費	200.	30年度入会金	25.400.
総支出	1320.	総収入	46.062.
差引残高	44.742.		
	46.062.		46.062

同 窓 会 経 過 報 告

（昭和二十六年度）

七月二二日 同窓会結成準備委員会開催。
八月二二日 第一回総会開催、会則決定、役員選出。

評議委員会開催、会長桑村益夫、副会長小池智子、山本洋之を互選。

二月二七日 評議委員会の推挙により能勢一男、樋口義和、西谷彦四郎、千田実の諸氏を顧問に委託。
三月一日 在校生との連絡協議会並びに懇談会開催。

三月二二日 同窓会名簿発行。
四月 總會準備委員会開催。
五月 評議委員会開催、会則改正案審議。

（昭和二十七年度）

五月一八日 第二回総会開催。会長桑村益夫、副会長吉田和雄、陶山安三を選出。アトラクションとして二中職員の内演劇を行う。

九月二七日 二中在校生のため進学懇談会を開く。

二月二七日 第四期生と連絡会を開催。
四月四日 總會準備委員会を開く。
四月一九日 評議委員会を開催。
四月二五日 總會準備委員会を開く。
四月 四期生名簿発行。

（昭和二十八年度）
五月一七日 第三回総会を開く。会長に石塚信、副会長に田中芳雄、桑村益夫を選出。余興として音楽と演劇有り。

評議委員会を開催し各種役員を互選す。
四月一九日 總會準備委員会開催。
五月一日 五期生名簿発行。

（昭和二十九年度）
五月九日 第四回総会を開く、会則改正、理事制を制定、会長田中芳雄、副会長橋本佳代子、山本洋之を

選出。

八月三〇日 理事会開催。
九月四日 二中在校生の爲、進学指導懇談会を行う。

評議委員会を開き映画会開催を決定。

九月二九日 会の文化活動として映画会を開催。
一月四日 理事会を開き会報発行の件につき協議、編集委員を決定。
三月二六日 会報編集準備会を開く。

四月一〇日 評議委員会を開き会報発行を承認、第五回総会開催につき協議。
会報編集会議を開く。（小池記）

訃 報

小高尙夫氏（旧職員） 昭和二十九年 病死
有賀文雄君（四期生） 昭和二十九年 山中湖にて水死

『会員住所変更』

第一期A組

柿原 博 江戸川区小岩町三ノ二一六三
 山田 一清 江戸川区西小松川二ノ三八八
 森 季子 船橋市本町三ノ一三〇三

B組

矢島順一郎 江東区大島町二ノ四三〇
 岸田 隆 市川市国府台一第三厚生寮
 岸田 弘 市川市須和田一ノ一〇一

C組

櫻井 浩 江戸川区小岩町七ノ六七六

第二期B組

酒井 康則 松戸市栄町一ノ八七七

D組

十川 偉記 市川市国府台町一ノ二
 堤 三和子 神戸市灘区篠原北町二一四
 楠 佐枝子 市川市菅野町六ノ二

第三期A組

山岡 秀子 澁谷区代々木本町八二二
 森 道子 船橋市本町一三〇三
 江本千恵子 北区滝野川八八

B組

小林 新平 目黒区宮前町四六(川本方)
 渡邊 極 市川市新田町一ノ三九九
 金塚 洋子 豊島区池袋一ノ五七〇

第四期A組

大光寺千代子 愛知県岡崎市井田町四ノ一一七

C組

鈴木 芳衛 銚子市興野町二ノ一三一
 磯村美智子 千代田区飯田町二ノ一一
 葛和アベート内

黒田小夜子 市川市菅野町六ノ二二五

旧職員

浜田 竜二 千葉市登戸町五ノ一三一

連絡委員名簿

一期	A 田中 芳雄	小池 智子	二期	A 鹿野 宗治	本名都美子	三期	A 馬場 英彰	内田 たき
	B 石塚 信	竹本 郁子		B 太田 清	江下 茂子		D 田中 昂生	楠 佐枝子
	C 桑村 益夫	上野 正子		G 大滝 茂	近藤比佐子		E 秋山 惠生	豊高 明子
	D 山田 斎	高橋 寛子		F 高島 博	宮田 ヨシ		F 藤井 陽一	中野 和江
	E 高島 博	宮田 ヨシ					B 山崎 健司	橋本佳代子
	F 大滝 茂	近藤比佐子					C 苗村 博	松本富美子
	G 太田 清	江下 茂子					D 渡部 英一	穴水 順子
	B 栗山壽美雄	宮崎 豊子					E 諸隅 正義	山口久美子
							B 飯島 雄三	篠田 滯子
							C 本名 貞夫	宮坂 尚子
							D 倉井 計行	須田 昌子
							E 浦辻 重雄	鈴木 敏子
							A 三村 武教	中略 徐子
							B 猪場 清彦	山田 尚美
							C 村瀬賢之助	笹部 道子
							D 小口 克彦	石坂 幸江
							E 繁田 佳彦	藤井 初子
							A 梅津 博志	安達 徹子
							B 原 慶和	山口まり子
							C 中村 一男	島津みゆき
							D 山本 周	田中くに子
							E 最首 尚也	中林 君子

市川二中同窓会会則

第一章 總 則

- 一、本会は、市川市立才二中学校 以下市川二中と稱す(同窓会と稱する)。
- 二、本会は、市川二中同窓会員の親善を図り、且つ母校の発展を目的とする。
- 三、本会は本部を市川二中内に置く。

第二章 活 動

- 本会は、第一章に掲げた目的を達成する爲に左の活動を行う
- 一、毎年一回の定期総会の開催。
 - 二、会員名簿及び会報の発行。
 - 三、ハイキング、演劇、音楽会、運動、その他のレクリエーション。
 - 四、母校生徒の指導奨励

第三章 会 員

- 一、本会は正、準、賛助会員をもつて組織する。
- 二、市川二中卒業生は、卒業と同時に全員、正会員となり、又且つて在籍した者は、本人の希望によつて正会員となり得る。
- 三、現、元職員、及び卒業生の父兄は、賛助会員とする。
- 四、現在市川二中に在籍中の生徒は、準会員とする。
- 五、本会の正会員及び賛助会員が氏名、住所、学校、職業等を変更した際は、本人か、又本人が死亡した時は代理が本会本部

第四章 適届け出る事が必要とする。

機 構

- 一、本会の機構は、名譽会長、会長、副会長、顧問、総会、評議委員会、理事会、会計委員会、会計監査委員会、連絡委員会をもつて構成する。
- 二、各種委員会は、正会員中より選出された委員によつて構成し本会の運営に当る。
- 三、名譽会長は、現学校長を推す。
- 四、顧問は、賛助会員中より現職員、父兄各若干名を置き、本会の相談相手になつて戴く。
- 五、会長(一名)は、会務を統轄し本会を統理する。
- 六、評議委員会は、正会員中よりの十五名の一般選出委員、会長、副会長、及び各期三名の連絡委員代表により構成し、本会の会務、総会の議案の作成、仮決定、總會の運営を行う、なお評議委員会の議決は委員の半数の出席を得た時有効とする
- 七、会計監査委員会は、正会員中より選出された若干名の委員により構成する。
- 八、理事会は、正副会長及び若干名の評議委員より構成し、評議委員会の承認と協力にもつて、評議委員会の行ふべき事のうち、細務を代行する。
- 九、連絡委員は、卒業年度の各クラスより、男女各一名ついで、末端の連絡に当る。又各期毎に三名つづを代表として評議委

員会に送る。

十、総会

イ、総会は、年一回原則として、五月中に行う。
ロ、総会の招集は、会長が行う。又総会は正会員によつて組織せられるが、賛助、準会員はオブザーバーとして出席できる。

ハ、総会は、最高の議決権を有し、総会の議決は、多数決法により、正副議長は、会長が之を指名する。

ニ、總會に於て、会長は各種の活動の報告をしなければならぬ
ホ、臨時總會は、会員の一割の賛成又は評議委員会の過半数の賛成によつて招集する事が出来る。

十一、任期

全ての委員の任期は一年とし、再選は差支えない。
委員は、各委員会にオブザーバーとして出席できる。

十二、リコール

委員に対して不満の有る時は評議委員の四分の三、又は總會の三分の二の賛成がある時リコールを行う事が出来る。

第五章 選挙

- 一、評議委員の選出は、原則として立候補制をとる。立候補者なき時は、前年度の評議委員会の推薦により、總會が承認する
- 二、理事、会計委員は評議委員中より若干名を互選し、書記、顧問は評議委員会の選出による。
- 三、連絡委員の選出は、毎年卒業時に各クラス単位に選出、卒業後は卒業年度のクラス単位に選出する。

編集後記

会報を作ろうという話が出たのは一月の理事会の席においてであつた。編集委員が決められ才一回の会合を開いたのは三月の下旬であつた。会報の形式、執筆者等が決められ、五月中旬発行の予定で準備が進められたが四月になつて間もなく、原稿がぼつ／＼寄せられ委員を感激させた。表紙は一期の川崎さんをお願いして御覽の様な美しいものができた。五月の四日に原稿が全てそろい印刷に廻し今日皆さんの手にお渡し出来ることになつたのである。

予算の都合で頁数が限定され又編集者の未熟の故、なか／＼予期した通りのものにならなかつたことをお詫びする。又創刊号という理由で内容がやや固苦しくなつたきらいもあるが本誌に対する感想や批判をどし／＼お寄せ下さい。

この会報は未だ芽を出したばかりの幼い苗木である。しかしこれがやがて花を咲かせ、豊かに実るように皆で育て、やつてほしい。

編集委員

- 桑村益夫 松本富美子
- 佐橋陽二 森川忠正
- 森 山本洋之 以上

(山本記)

- 四、委員は会計委員と評議委員を兼ねる事は出来ないが、連絡委員と、他の一つの委員を兼ねることは差支えない。
- 五、会長、副会長は、正会員中より總會に於て選出する。会長、副会長は、評議委員を兼任する事が出来、又評議委員会に出席し、発言、議決の権利を持つ。
- 六、会計監査委員の選挙は、總會に於て行う。

第六章 会計

- 一、本会の会計は、会計委員が之を掌る。
- 二、本会は入会金、及び寄付を基金として会務を掌る。
- 三、特別に会を開くに必要な費用は、その都度評議委員会が決定し、出席者が納入する。

四、新入会員は、卒業の際入会金百円を納入する。

五、本会の会計年度は、毎年四月一日より向う一ヶ年間とする。

第七章 雑則

一、その他の運営に必要な細則は、会則に基いて各委員会が決定する。

二、規約改正

本会の規約改正については、總會の出席人員の過半数の賛成を得た時、改正する事が出来る。

三、本会則は、昭和二十七年五月十八日より有効とする。

昭和三十年五月五日印刷 創刊号
昭和三十年五月十五日 発行

発行所 市川市立才二中学校同窓会
編集責任者 山本洋之
印刷所 三祐堂 白淵周藏

非売品